

大学院満足度調査結果(2023 年度)

Q1-1: あなたが、本学の大学院で意欲的に取り組んできたことは何ですか。

- ・必修の取得単位の授業や、修士論文の取り組みなど大学院生としての学びです。
- ・研究
- ・講義
- ・ミネラルが不足する傾向にある現代の日本人の食生活において、効率的、かつ継続的なミネラル摂取の方法を模索することに注力し、特に亜鉛に関しては、研究のテーマとして取り上げ取り組みました。

Q1-2: 意欲的に取り組もうとして、結果的に不満だったことは何ですか。

- ・特にありません: 2
- ・先生と1対1での講義もその良さはあると思いますが、同期の人が少なくみんなでディスカッションする場面がなかったのは残念でした。
- ・コロナ禍において、仕事をしながらの通学を制限せざるを得ない状況となり、結果的にそれが研究内容にも影響してしまったことです。

Q2-1: あなたが、本学の大学院で身につけようと取り組んできたことは何ですか。

- ・子どもの福祉について
- ・ものの見方や考え方、探究したいことの探究の仕方。
- ・視野を広げるため色々な分野の人とディスカッションをした
- ・専門分野の基礎知識を修得するとともに、多くの文献に目を通し、最新の研究で注目される点やその動向を把握する能力を修得しようと取り組んでまいりました。

Q2-2: 身につけようとしてうまくいかなかった能力は何ですか。

- ・特にありません: 2
- ・(記載なし)
- ・英語文献の翻訳に時間がかかりスムーズに進められない点です。

Q3: 大学院で開講されている授業(特論や演習など)についての長所や問題点を書いてください。

- ・ディスカッションする機会が多く、色々な人の考え方を知ることが出来たのが良いと思いました。
- ・コロナ蔓延もあったので、オンラインでの授業になることも多かったのですが、致し方ないと思います。また、私の場合は、学校まで遠距離ということもあり、天候や冬期の通学などにご配慮いただいて助かりました。
- ・(記載なし)
- ・ほとんどの授業が1対1で行っていただきましたので、疑問点をその場で確認することがしやすい

く、また、様々なテーマでディスカッションできたことがとても良かったと思っています。その点が長所であり、問題点はありませんでした。

Q4:カリキュラムや履修システムの長所や問題点を書いてください。

- ・他専攻の授業をもっと履修しやすくして欲しいです。
- ・環境の授業は、北大の外部講師の先生でしたが、東北に出向いて大震災について学べたことは貴重で大きな経験でした。
- ・(記載なし)
- ・カリキュラムの内容が幅広く、自分の関心度の高い分野や研究内容を踏まえ適した選択ができたことが長所だと思います。仕事をしながらの環境を考えると集中講義がもう少し多ければ良いと感じております。

Q5:修士論文作成に関する指導(特別研究など)について長所や問題点を書いてください。

- ・担当教員がこまめに連絡をしてくれて、孤独感なく論文を作成することが出来て良いと思った。
- ・担当指導教授の先生は、最後までとても丁寧にご指導いただきました。ただとてもお忙しいそうで、お体が心配でした。
- ・(記載なし)
- ・指導教授と常にメールやオンラインで通信しながら進められましたので、遠方からの通学でも不自由がなかったことが大きな長所だと感じております。問題点はありませんでした。

Q6:学生支援システムや各種サポート体制についての意見を書いてください。

- ・もう少しキャリア支援をして欲しいと思った。
- ・(記載なし):2
- ・遠方からの通学でも学びやすい環境体制であり、常にリアルタイムで情報入手ができましたので、とても良かったと実感しています。

Q7:教育施設(図書館、パソコン、実験設備など)・福利厚生施設(食堂、購買、学生相談室など)についての意見を書いてください。

- ・M1の冬頃に院生室にあったシュレッダーが壊れていたもので回収してもらったが、結局修了するまで戻ってこず個人情報がかかれていた紙の処理に困りました。院生室のパソコンがプリンターと接続されておらず、担当教員に接続方法を聞きに行ったことがあるので、最初から印刷出来るような環境にしておいて欲しいです。
- ・自分専用のパソコンが欲しい
- ・図書館の方たちは、論文の見方や取り寄せ方など教えていただき、何度も取り寄せていただき、助かりました。
- ・遠方からの通学でコロナ禍ということもあり実際に利用する機会はあまりなかったです。

Q8: その他、学生生活全般についての意見を書いてください。

- ・特にありません。
- ・(記載なし)
- ・年をとってから、学ぶことはとても楽しいことでした。
- ・通学に長時間かかるという環境の中で、体力が必要だと感じることもありましたが、オンライン授業やメールのやり取りで、仕事にも大きな影響がなく、最後まで続けることができたことに感謝しております。

Q9: あなたは本大学院に入学してよかったと思いますか。

- ・はい: 2
- ・よかったと思います。しかも長期履修でゆっくり長く学べたのは、私にとっては特によかったと思います。
- ・(記載なし)
- ・多くの先生方とディスカッションすることができたことが、今後の自分の人生の大きな財産になったと感じており、入学して良かったと思います。

Q10-1: あなたは全般的に見て研究科や所属した専攻に満足していますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- ・満足している: 2
- ・どちらかといえば満足している: 2

Q10-2: Q10-1 で「あまり満足していない」「不満がある」と回答された方のみ、その理由を書いてください。

Q11-1: 本研究科に興味を持っている先輩・後輩、きょうだいがいる場合、あなたは本学への入学を勧めたいと思いますか。あてはまるもの1つを選んでください。

- ・勧めたい
- ・どちらかといえば勧めたい: 3

Q11-2: Q11-1 で「どちらともいえない」「あまり勧めたくない」と回答された方のみ、その理由を書いてください。

Q12: 本学の大学院学生として解決したいと思う課題(学業・経済状況・仕事との両立等)がありましたら、具体的内容を書いてください。

- ・特にありません。
- ・(記載なし): 2
- ・仕事との両立は簡単なことではありませんが、大学における理解と職場での協力体制が整っていれば十分に可能ではあると思います。しかし、遠方からの通学の場合、交通費や宿泊費を考えると経済的な余裕がなければ難しいとも思いますので、コロナ禍でなくても、必要に応じてオンライン授業の必要性が高いものと感じました。

Q13: 本学の大学院学生をサポートするシステムとして期待することがあれば、自由に書いてください。

- ・(記載なし): 2
- ・本学は、教職免許が取得できる科が多いですが、現状の学校や教育システムを問い直し、本来の教育原理を経た藤女子大ならではの教育観・学校間・子ども観を学んだ、教育大や他の大学で学んで教職をとった人たちとは違う、独自性、特質を身につけて活躍してほしいと思います。
- ・オンライン授業を中心とした通信システムの活用により、札幌近郊だけではなく、遠方からでも学ぼうとする方々を受け入れていただけるサポートを充実していただきたいです。

調査は以上になります。ご協力をいただき、ありがとうございました。

- ・藤女子大学の先生たちや職員の皆様にはお世話になりました。ありがとうございました。

以上